

高等学校教育研究会 参加報告（国語科）

全国高等学校国語教育研究連合会第51回研究大会 秋田大会

兼 第64回東北地区国語教育研究協議会 秋田大会

第52回秋田県国語教育研究協議会秋田大会

平成30年度秋田県高等学校国語研究大会

教 諭 富樫昌子

研究主題 『育成する「ことばの力」を明確にした授業の実践
—主体的・対話的で深い学びを通して— 』

1 期 日 平成30年11月16日（金）・17日（土）

2 会 場 秋田高校・秋田北高校 他4校（1日目）、秋田市文化会館（2日目）

3 日 程

1日目 （1）公開授業・研究発表（以下から一校選択）

① 秋田県立秋田高等学校

② 秋田県立秋田北高等学校

③ 秋田県立秋田工業高等学校

④ 秋田県立秋田中央高等学校

⑤ 秋田県立秋田明德館高等学校

⑥ 聖霊女子短期大学附属高等学校

*本校職員は①・②の会場校に分かれ、会場運営補助にあたった。

2日目 （1）開会行事

挨拶、祝辞、来賓紹介、会務報告、次回開催地（鹿児島県）挨拶

（2）文部科学省講話

演 題：「新学習指導要領が目指す高校国語の資質・能力と授業改善」

講 師：大滝 一登（文部科学省初等中等教育局視学官）

（3）記念講演

講 演：『星の花が振るころに』の周辺

講 師：児童文学作家 安東 みきえ 氏

（4）閉会行事

【概要と感想】

今大会は、全国で唯一国語全国大会を未開催だったという経緯から、秋田県が当番県となり、2日間に渡って開催された。1日目は秋田市内6校を会場に研究授業主体の分科会

を、2日目は講話・講演を中心とした全体会が行われた。

第1日目の分科会は、全県の秋田市以外の国語科教員が、会場校6校に振り分けられ運営補助にあたった。本校は秋田高校に1名、秋田北高校に2名配置された。

秋田北高校では、第15分科会（1年国語総合・現代文）と、第16分科会（2年古典）が設けられ、本校は第16分科会の記録担当として参加した。

第16分科会は、秋田北高校伊藤博美先生による古文『平家物語』の授業だった。貴族的要素の強い「平忠度」と、武人として誇り高い「平教経」を中心に、もはや避けようのない一族の滅亡と自身の死を目の前にした2人のそれぞれの思いを、記述内容から読み解き、言語化することを目指したものだ。

『平家物語』は大変有名な冒頭部分からもわかるように、権勢を誇った平家一門が壇ノ浦で滅亡を迎えるまでを描いた諸行無常をテーマとした軍記物である。そのため、膨大な人々の生と死を描き出し、なかなか授業では取り扱いが難しい。それを、今回の授業では、ビブリオバトルの形式を借り、グループ学習でまず内容を整理させていた。

まず前時に、各グループで生き方の違う上記2人の一押しの名場面を探させる。本時が始まる前に板書させ、前半は各グループからプレゼンテーションさせ、それぞれの生き方の特徴（見せ場）を確認させる。その生き方から、死への道筋をたどらせることで登場人物の内面を探らせるものであり、違う生き方の2人を対比させることで読み取りを深める手法だった。

武人として生きた「平教経」の最期の場面を取り上げ、本時は終わったが、読み解いた後の生徒たちの「ああ、そうか」「うわぁ」「そういうことか」といったため息のような歓声が、この授業の全てだと思う。大変勉強になり、また古典の持つ力を再認識させて頂いた、すばらしい研究授業だった。今後、一要素なりとも授業に取り入れて、生徒とともに古典の魅力を味わえたらと希望を持ちつつ、自身の授業を振り返り研鑽を積んでいきたい。